



アイラブ武雄の 良広です

実りの秋を迎えた田んぼでは稲刈りの季節を迎えました。県内の作況指数は平年並みだが、全国的には 102 と豊作の見通しである。丹精こめて作った米が、米離れが進む中で「余剰米」とレッテルがはられる。われわれ農民の努力した結果がこれでは浮かばれない。消費者としては安さはありがたいと思うかもしれませんが、価格は市場原理が原則かも、でも以前は再生産補償価格と言う名の適性価格が農業生産物の価格にもありました。それでこそ農民も安心して来年も農業生産に励めるのです。

日本の食料は国産物に加えて外国からの輸入で飽食の時代が続いているのですが、日本の食料自給率は約 40% で、主要先進国のうちでは最低の食料自給率です。日本もいずれ食糧危機が訪れるかもしれない、もし輸入がストップしたらどうなるか？ 長期的には世界の食糧危機が心配される今日です。こんな時こそ「もう一杯お代わり」と声かけて米を大いに食べようじゃありませんか！！それが日本の食糧危機を救う道だと信じます。「カアチャン飯もう一杯。」

9 月定例議会は（9 月 5 日～9 月 28 日）まで開かれもした。今議会は 14 名の議員の一般質問があり、私は 9 月 14 日に一般質問をしました。

【山口良広の一般質問】

- 1 子育て支援対策について
- 2 教育環境について
- 3 農業問題について



私には、外孫ですが2人いてその孫は2歳半の男の子と半年のおんなの子でかわいいものです。

その子供のお母さんすなわち私の娘が8月の後半に夏バテから2~3日体調を崩し、我が家でその孫たちを預かることになったのです。私たち夫婦とおじいちゃんおばあちゃんは、そりゃ楽しいもので「誰が風呂に入れるの」「散歩につれていくの」「カブトムシを買ってくる」と農作業はそっちのけの、



昼間だけの私設保育所は楽しかったり、大変だったりの3日間だけの山口家私設保育所は、またたくまに過ぎていきました元の年寄りだけの生活が始まりました。

そこで思ったのですが、私の娘は近くに見てくれる親や祖父母がいるから良かったもので、もし私たちのような見てくれる親がいない子育てしている親がもし、病気や急用で育児をすることができなかった時、こんな時はどうなるんだろうと思いました。そこで武雄では0歳児・2~3歳のころの保育園に通っている子供、通っていない子供、小学生の子供たちと具体的にそんな親に対するサポートがあるのかたずねました。

〈答弁〉

核家族化の進行や地域での連帯感が薄れ、休養等で育児ができない場合に子供を預かるなどの子育て支援対策が必要になっていると考えています。0歳児を含めて、保育園に通っている児童の場合、保育園に預けることにより保育をお願いできるわけですが、保育園に通っていない場合は、武雄保育所で開設している一時保育が利用できます。一時保育については、市内の認可外保育所でも実施されているところもあります。なお武雄保育所で行っています一時保育は武雄保育所で保育士を2名配置し、専用教室を設けて実施しております。次に小学生の場合は、保育サポーターやたすけあい事業の利用をお願いしており、市内では子育ての民間ボランティアとして、子供クラブ活動やPTA活動をはじめたくさんの方がかかわっていただいております。子育てはあくまで保護者が中心ですが、今回の次世代育成支援法では子育ての社会科、地域での子育て環境作りをテーマとしております。身近なボランティア活動などの民間活動を通して、子育て支援を行う姿が望ましいと考えます。行政は施設の整備や仕組みづくりなどそのための条件整備などをやっていきたいと考

えております。なお利用にあたっては子育て支援センターや福祉課にご相談ください。

私は、今度合併する新しい市には今の武雄保育所のような、子育て支援のできる保育所すなわち一時保育専門の保育士を配置し、専門の教室があり、在宅心身障害児通園保育も伝統芸能や農作業を通じて地域交流のできる保育、それに広い駐車場等ができ心豊かな幼児期ができる保育環境整備にも努力したいと思います。

教育環境について

今さら中高一貫教育制度をどうこう言うつもりはありませんが私は高等教育、特に中高一貫教育について武雄市民の一人として納得できないことがあります。それは、佐賀を4つのブロックに分けて中高一貫の高校が整備されようとしている訳ですが、佐賀では致遠館高校として新設の学校が作られました。唐津東高校は学校の敷地が狭いということで別の土地での中高一貫の高校が計画されています。鳥栖高校は広い敷地を有するというので、敷地内で県立の中学部を新設することになっています。県内では武雄を除いては同一敷地内に中高一貫の校舎があるというのに、武雄だけが分離された校舎で中高一貫がなされようとしているのは何故なのか。それも武雄にある普通高校の武雄高校、武雄青陵高校を廃校までしてつくらなくてはならないか。佐賀、唐津には同じ市内に普通高校は残っているし、鳥栖高校も交通の便のよい普通高校があります。それを考えたとき、武雄の中高一貫に選ばれなかった子供たちはどこに行くんでしょう。今、世の中は東京一極集中の時代から地方の時代、地域に根付いた子供たちすなわち武雄で学びの場として高校時代をすごした子供たちが、大学などで専門の教育を受け、世の中に出て行くことと思うのです。そして、いろんなときに高校時代を同じ郷土の仲間と過ごした事を大事にして世の中に出て行くことでしょう。そんな時、武雄のような4万人弱の地方中心都市で、上級学校を目指す子供や、15の春に受験戦争を経験しなくてすむなどの利点もあり私は中高一貫を否定するつもりはありませんが、確かに「中学校卒業時に再度その中高一貫の高等部を目指せばいいじゃないか」の声があると思いますが、そこには佐賀西部地区（武雄、伊万里、鹿島、西松浦郡、杵島郡、藤津郡）の全中学校区から、その中高一貫の高等部を目指す子供たちと競争しなくてはならないのです。すなわちレベルの高い競争になるのです、そこに武雄市内の子供たちの選択の幅が狭くなるのです。

そこで、私は今の武雄高校の敷地内で中学部4クラス、それをそのまま高等部クラスの6年間受験のない本当のゆとりのある真の充実した県立の中高一貫教育をめ

ざしてもいいと思うのです。それと同時に地域に根づいた特色のある武雄青陵高校4～6クラス規模校として又は杵島商業高校と併合した型でも残して、武雄の子供たちの選択の幅を持たせてもいいと思うのです。そこでは、地域に根付きいろんなイベントに積極的に参加して癒しの音楽を奏でるブラスバンドや、今年大活躍した少年野球の子供たちが目標となる甲子園を目指す高校野球部を作る等の特色のある学校を作ってもいいと思うのです。

大学進学を希望する学生の比率が高くなっている現在、武雄の中高一貫の高校に進学できなかった普通高校を希望する武雄の子供たちは、鹿島、白石、伊万里もしくは私立の佐賀の高校へと進学すると思うのです。通学費用も多額になり、通学時間帯のバス JR 等も不便になり保護者は経済的にも時間的にも負担は大きくなると思うのです。その点も含めそれらの負担を考えると今まで以上に武雄は子育てしにくくなる環境になると思うのです。県西部の中核都市を目指す、武雄市はこのまま黙って高校生が通学しにくくなるのを黙ってみているつもりなのか……

子供を産み育てたくない原因の一つとして、教育費にかかり過ぎともいわれています。その点も含めて、佐賀西部地区の中核都市を目ざし、交通の要所で東西南北に国道が通り、近い未来には新幹線を利用して福岡都市圏への通勤通学都市をめざす武雄です。以上のようなことから、県立中高一貫高校と地元の子供たちが通学する、普通高校もしくは商業高校が併設された高校が武雄市内にあっていいと思うのですが……どう、市民の皆さんは思われますか？

この頃の山口良広は

今議会の一般質問の問題提起をしてくれた私の孫龍馬君（12月で3歳）と蘭ちゃん（12月で1歳）、二人今では武雄保育所

にあるふれあいセンターに相談にいき、

子育て支援センター事業で、

文化会館や各町回しでの公民館に

月2回ほど参加したり、それでも

何かあるときには武雄保育所の

一日保育に行ったりで、だいぶ親の負担の軽減になっているようですありがとうございました。

「時には、じいちゃん、ばあちゃんもいいよ」

の声を聞いているのか、聞いていないのかやってくる。

（正式にいうとあずかさられている）孫にニンマリのジーバカの私です。

